



成果指標				
成果指標	水道使用料÷総務管理費用(直接事業費)			
指標設定の考え方	水道施設を維持管理していく上で、費用対効果及び受益者負担の原則により、独立採算制が取れる事業に少しでも近付ける必要がある。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目標	0.9	0.9	0.9	0
実績	0.66	0.8	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	施設の経年劣化は避けて通れない状況にあり、効率的かつ適切な維持管理を行う事により、安全でより安定した水道水の供給につながる。また、施設の統合や整備を検討する必要性もある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	飲料水供給施設は、地域の生活基盤を支える重要な施設であるため、継続して円滑な施設運営にあたらなければならないが、施設の経年劣化を踏まえたとき、効率的かつ適切な維持管理を行うことが、何よりも重要である。今後は、施設の統合を含めて更新等の検討をする必要性がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題